FM 57—30

WAR DEPARTMENT

AIRBORNE OPERATIONS FIELD MANUAL

CMBN — "MARKET GARDEN"

L. Simps
AS.N. 35306953

v2. 11

・本マニュアルの翻訳にあたり、Battlefront.com社様よりJapanzerに翻訳許可を特別に得ております。

・本翻訳マニュアルの使用に際しては、翻訳の精度に関わらず、いかなる損害が発生してもBattlefront.com社様およびJapanzerは一切の保証や一切の責任を負わないことをご承知ください。

■　ライセンス

本ライセンスは、ソフトウェアプログラム「Combat Mission: Battle for Normandy - Market Garden」(以下、「本ソフトウェア」)に対する権利もしくは所有権を提供するものではなく、本ソフトウェアの限定的な使用および本ソフトウェアの複製を記録したメディアの所有権を提供する。本ソフトウェアは、ソースコードを含めて、Battlefront.com社の所有物であり、かつこれに変更はないものとする。ユーザーは、バックアップ目的のみにより、全ての所有権表示（例えば、著作権、企業秘密、商標）をオリジナルと同じフォームで復元する条件で本ソフトウェアを一部複製すること、およびこのバックアップのコピーを所有することができる。本ライセンスにおける「コピー」の用語とは、全体あるいは一部を問わず、また制限の無い可読材質、いかなる種類の記憶装置での複製、手書きもしくは口頭での複製や復元を含むいかなる形態での本ソフトウェアのあらゆる複製をいう。本マニュアルは、全体あるいは一部を問わず、BATTLEFRONT.com社からの同意書類が前もって無いかぎり、複製、写真撮影、複写、翻訳、あらゆる電子メディアあるいは機械可読形態への分解を許可しない。本条項で特別に承諾していない権利は、この全てをBATTLEFRONT.com社が保有する。

いかなる方法であっても、修正、拡張、デコード、リバースエンジニアを本ソフトウェアに行なってはならないものとする。ユーザー製作のシナリオおよびグラフィックスまたは他のModsのような他の素材は無料配布を行なえるが、販売、ライセンス付与、あるいは販売、ライセンス付与されているパッケージや製品に含めることは、BATTLEFRONT.com社からの同意書類が前もって無いかぎり、これらを行なうことはできないものとする。本ソフトウェアあるいは関連素材の貸し出し、あるいはリースを行なうことはできない。

コピーを残さず、かつ、本ライセンス用語に定義される移転に合致するのであれば、本ソフトウェアおよび関連する著作物の譲渡はいつまでも行なうことができる。移転を行なうと本ソフトウェアおよび関連素材の使用を許諾した元のライセンスは終了する。

本ソフトウェアをインストールおよび動作させるために、ユーザーのコンピューターに第三者のライセンス用アプリケーションの使用を承知し同意する。

■　限定保証

BATTLEFRONT.comは、元来の購入者に対して本ソフトウェアの到着日から90日間、本ソフトウェアが記録されたメディアが製造における不良の無いこと、および、 通常の使用における物品を保証する。本保証は、紛失、盗難、複製、あるいは事故、誤使用、怠慢、不認可修正による損傷を対象としない。

BATTLEFRONT.comの全責任とユーザーの独占的な弁償は、支払われた価格の返却もしくは上に記述された限定責任に合致しないメディアへの交換のいずれかをBATTLEFRONT.comが選択するものとする。本メディアは、BATTLEFRONT.comに購入レシートを添えて返却しなくてはならない。交換したソフトウェアは、元来の保証期間もしくは30日間のいずれか長い期間、同じ限定責任を負うものとする。

■　限定責任

BATTLEFRONT.comは、特定目的のための本ソフトウェアまたは関連素材に関する品質、パフォーマンス、市場性、非侵害、健康に関する他の保証、表明、暗示、もしくは売買、取引慣行、商習慣によるいかなる保証を行なわない。結果として、本ソフトウェアおよび関連素材は「現状有姿」でのライセンスを行なう。いかなる場合においても、BATTLEFRONT.comは、本ソフトウェアおよび関連素材の所有、使用、誤作動から起こるいかなる特別的、突発的、継続的損害を負わない。暗黙の保証の有効期間および/または除外、 または偶発的または必然的損害の制限期間に関する制限を認めない場合があるため、上記の制限および/または除外が適用されないことがある。本保証は特別的権利を提供し、 かつ州によって変わる他の権利も保有することができる。

■　はじめに

コンバットミッション: マーケットガーデンは、バーナード・モンゴメリー元帥による1944年9月のオランダを駆け巡り、ライン河を一躍渡り、ドイツそのものの中心部に進行しようとする賭けを描く。米軍、英軍、自由ポーランド軍を参加したマーケットガーデン作戦は1945年前に戦争を終わらせる雷光のつもりだった。

"マーケット"とは、作戦の空挺部隊 である。連合軍第1空挺軍には、米軍第101空挺師団、第82空挺師団、英軍第1空挺師団、自由ポーランド軍独立第1空挺連隊があり、主要な橋と土地を確保するために敵戦線背後に降下した。これは3万4000名以上が空を動くという史上最大の空挺作戦で、準備は1週間であった。空挺部隊は、アイントホーフェン、アーネム、ナイメーヘンなどの場所で重要な橋を占領し、地上部隊の救援まで四日間保持しておくことを期待された。

作戦の地上部分は、"ガーデン"の名称が付けられており、英軍第XXX軍団が69号幹線道路を急速度で駆け上って、アーネムの北やそれ以降に進みながら空挺部隊の各包囲を救援するとされた。上手くすると、ルールのドイツ産業中心部が急襲にがら空きかもしれず、数ヶ月で戦争終結の芽がある。

だが、ドイツ軍には異なる計画を秘めていた。ノルマンディからの連合軍突破やそれに続く破滅的なファレーズポケットの後、B軍集団はドイツ国境へ全速力で退却していた。最近の敗北にもかかわらず、ドイツ国防軍はまたもやマーケットガーデンに目覚ましい対応を行い、連合軍の前進を制止すべく、SS装甲師団、陸軍擲弾兵、空軍降下猟兵、それに訓練学校や海軍からの即席戦闘部隊で臨時部隊を編成した。

貴官は現場の戦術指揮官である。モンティの、オランダにあるラインに到達し渡河する大胆な作戦を再現したり、またはドイツ軍部隊の指揮を執って何としても祖国を守り抜く。連合軍が1945年以前に戦争を終結させるか、またはフレデリック・ ブラウニング中将の有名な言葉「遠すぎた橋」になるかは貴官にかかっている。

■　新機能

コンバットミッション: マーケットガーデンは、1944年9月のマーケットガーデン作戦の戦闘に焦点をあてて、部隊、装備、地形を細やかな戦術的視点で描いています。

■　新たな戦闘部隊

マーケットガーデンモジュールに含まれる戦闘部隊はマーケットガーデン作戦が起こった部隊に焦点をしぼっていて特殊でユニークな部隊もあり、その中の英軍グライダーパイロット中隊は着地後に降車歩兵として機能しましたし、臨時、予備、訓練学校、狙撃兵大隊などの即席ドイツ軍部隊もあります。

備考: 新しい編成全体は、エディタで年月と地域を1944年9月オランダとすると詳細に見ることができます。

- 英軍歩兵、装甲歩兵、戦車部隊
- 英軍空挺および降着歩兵歩兵編成で、グライダーパイロット中隊やパック榴弾砲があります。
- 自由ポーランド軍空挺大隊と降着対戦車中隊
- ドイツ陸軍予備大隊、臨時大隊、戦車旅団戦車および装甲擲弾兵大隊
- ドイツ軍武装親衛隊歩兵、装甲歩兵に、装甲部隊、臨時の戦車中隊、装甲擲弾兵戦闘団、訓練学校大隊
- ドイツ空軍降下猟兵および飛行場編成
- ドイツ海軍船兵および海兵

■ 新装備

備考: マーケットガーデンモジュールに含まれる新装備の全リストはエンサイクロペディア章を参照してください。

- 広範囲な英軍装備には、クロムウェルやチャレンジャー戦車、ディンゴ偵察車、スタッグハウンド装甲車があります。
- 三号戦車、四号駆逐戦車IV/70、PSW 233や234/3の装甲車、ヘンシェル砲塔のケーニヒスティーガーなどの新ドイツ軍車両！
- 降下猟兵用の特別装備には、FG-42戦闘銃、LG 40 75mm 無線条砲、PaK 36 37mm 対戦車砲、"クルツ"KzGrW 42 81mm迫撃砲
- 米軍用にThe M18 GMC "ヘルキャット"や75mmパック榴弾砲
- 対戦車砲は、各国の地上型と車両搭載型があり、ボフォース、四連対空、M16 MGMC、メーベルワーゲン、ヴィルベルヴィント、クルセイダー対空砲などがあります。

■ 歴史的地形

- アーネム橋、ナイメーヘン橋、アイントホーフェン橋など、マーケットガーデン作戦で有名な（そして巨大な）橋梁の正確なモデル加えて、架空バトルに使う、一般的な大型橋梁も数種類あります。
- 都市環境をらしく魅せるオランダ建築様式の新しい建物があります。
- 新しい"溝ロック"の標高ツールや小道

備考: 詳細は地形機能を参照のこと。

■ マスターマップ

マーケットガーデンモジュールでは7つの"マスター マップ"を用意しており、簡単に史実のバトルを作成できます。これらのマップは大型で、マーケットガーデンの有名な戦場周辺の地形を史実に正確に再現しているので、独自のシナリオやキャンペーン製作に利用でうることができます。

含まれる地域: オーステルベーク、ヨハンナ、ヨハンナ・ヘーベ、アーネム橋、ナイメーヘン、西ナイメーヘン、エルスト

■ 都市戦闘強化

マーケットガーデンモジュールでは都市戦闘に変化をもたらします。これらの変更の目的は戦車やほかの戦闘車両が密集した都市環境ではもっと脆くなることを作り出すためです。

備考: 都市戦闘の変更はマーケットガーデンモジュールのみに限ってはおらず、将来、他のコンバットミッションゲーム用のパッチにも含まれます。

- バズーカ、パンツァーファウスト、パンツァーシュレックのようなロケット推進対戦車兵器は建物内からも撃てるようになりました。しかし、これらの兵器が放つ致死高温ガスにより、直近にいる兵士は負傷したり、戦意をくじくことになるかもしれません。
- 車両が最大仰角以上の目標に向かって射撃(隣接建物の上の階に撃とうとする戦車)しようとすると、射撃の狙いを定める時間がかなり長くなります。
- ハッチを閉めた装甲車両は、車両に群がる歩兵のような直射距離目標に攻撃しようとすると、同じペナルティが課せられます。
- 戦車のペリスコープや覗視孔は視認能力がかなり下がり、閉まっている戦車は敵部隊を視認するのがもっと難しくなりました。

■　インストールとライセンス

■　ディスク版のインストール

ゲームをインストールするにはゲームディスクをDVDドライブに挿入してください。

(PC)お使いのコンピュータがCDオートスタートするようになっていれば、インストールメニューが表示されます。“Install Game”オプションをクリックするとインストールが始まります。CDオートスタートが動作しないようになっていたり、また、インストールメニューが表示されない場合、ディスクの内容をエクスプローラ等で見て、“Setup.exe”をダブルクリックしてください。これで手動でゲームインストーラが起動します。

(Mac)Mac版は、ディスクアイコンを開いてゲームアプリケーションをハードドライブ（たとえばアプリケーションフォルダ）にコピーするだけです。

■　ダウンロード版のインストール

セットアップファイルのダウンロードが成功したら、それをダブルクリックしてインストーラを起動してください。

備考：ダウンロードには使用終了日はありません。ですが、未来永劫に使用できるとは保証しません。ですから、ダウンロードしたインストーラファイルをディスクに焼いたり、USBスティックや外部ハードディスクにコピー・バックアップして、後でゲームを再インストールできるようにしておいたたほうがよいでしょう。

■　ライセンス概観

コンバットミッションは、オンラインアクティベーションシステムで保護されており、非合法なソフトウェアの配布を制限しています。

■　ライセンスキーの見つけ方

（以下、ライセンスの方法が旧来とは異なってきていて、実際のライセンスの役に立たないため、翻訳しません。

最新版の情報を参照してください。）

■ エンサイクロペディア

■アメリカ軍

■駆逐戦車

■M18 GMC (ガン・モーター・キャリッジ)

"ヘルキャット"というニックネームのM18 GMCは1944年初めに米軍制式化された駆逐戦車である。ヘルキャットは第二次世界大戦で最も速い装軌戦闘車両で最高速度は97km/hであった。ヘルキャットの速度と機動性は、非常に高い馬力重量比のおかげであり、軽い車重に400馬力のコンチネンタルR-975ガソリンエンジンと革新的なトーションバーサスペンションを持つ。

ヘルキャットの敏捷性は代償がある。オープントップの砲塔は乗員が狙撃兵や砲弾の破片にもろく、車両の他の部分も装甲が非常に薄い。

装甲.....5 - 25 mm

稼動開始.....1944年7月

装備部隊.....駆逐戦車大隊

■対空車両

■M15A1 CGMC

M15 CGMC (コンバインド・ガン・モーター・キャリッジ)は、M3ハーフトラックを改修して対空砲を搭載したものである。上々の成功をおさめたT28E1試作型の量産型として、オートカー社は1943年2月にM15 CGMCの製造を開始した。本車両の乗員は7名で、M1A3 37mm自動砲1門と両脇の50口径銃重機関銃2丁が特徴的である。ガンマウントと乗員は連結ガンマウントを覆う装甲上部構造で保護された。M15A1 CGMCはM15の後期生産型で、新しい銃架が特徴である。

備考: CM:BNでは、対空ハーフトラックは運転席越しに車両前面に直接射撃することは不可能である。

装甲.....6 - 12.7 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....自走対空砲中隊の第1及び第2小隊

■M16 MGMC

"肉切り包丁"として知られるM16 MGMC (マルチプル・ガン・モーター・キャリッジ)は、ホワイト自動車が製造した対空ハーフトラックである。The M16 MGMCは、身の毛もよだつ50口径M2TTHB重機関銃4丁のマクソンM45D四連装マウントを装備した。M3ハーフトラックを基にして、M16 MGMCは実質M13 MGMCとなるT58試作型で始まり、新しい機関銃座と2丁ではなく機関銃4丁を持つことになった。

備考: CM:BNでは、対空ハーフトラックは運転席越しに車両前面に直接射撃することは不可能である。

装甲.....6 - 12.7 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....自走対空砲中隊の第3及び第4小隊

■米軍重火器

■M1A1 パック榴弾砲

75mm M1パック榴弾砲は、米軍が困難な地形を移動できる砲の必要から1920年代に開発した。本砲と砲弾はいくつかの部品に分解して動物で運んだり空輸で空中投下して空挺部隊が使用できるように設計された。

パック榴弾砲は空挺部隊が使うのが一般的で、その小ささで空挺降下についていき、軽間接支援射撃を行い、HEAT弾で限定的ながらも対戦車能力があった。

発射速度 6発

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....パラシュートおよびグライダーパック榴弾砲中隊

■ボフォース対空砲

ボフォース対空砲は、スェーデン製の40mm自動カノン砲で、1930年代初期に設計された。米軍では40mm M1オートマチック砲として知られる。ボフォース対空砲は、毎分120発まで発射でき、初速は881m/秒で、高炸裂弾も徹甲弾も使うことができた。第二次大戦中、ボフォース砲は、ほとんどの連合軍部隊で対空砲として使用された。設計は非常に評判が良く、2013年でも様々な軍隊で現役でありつづけている。

備考: CM:BNの対空砲は固定されている。セットアップフェーズ後は移動、車台装着、牽引は一切不可能である。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....対空砲中隊

■M51 四連50口径

M51はトレーラーに搭載した四連50口径機関銃である。M51は、40mmや90mm砲と一緒に対空中隊にいて防御火力や援護火力として使われた。

M51は並以下の機動性であったが、強烈な発射速度で補っている。

発射速度: 最大 2,200発/分

有効射程: 2,200メートル<分節?2676>

備考: CM:BNの対空砲は固定されている。セットアップフェーズ後は移動、車台装着、牽引は一切不可能である。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....対空砲中隊

■英連邦部隊

■シャーマン戦車

英連邦軍は、米軍シャーマン中戦車のいくつかの派生型を使用している。戦争中、英軍はおよそ17、000両の戦車（M4戦車全生産量の1/3以上）を受け取った。シャーマンのある形式は、M4A4が顕著だが、輸出用に設計されたものである。一つ注目に値する特徴は、大半の英連邦軍のシャーマンは戦車長ハッチに50口径機関銃が無かったことである。

英軍の命名則では、M4を「シャーマンⅠ」、M4A1を「シャーマンⅡ」、M4A2を「シャーマンⅢ」、M4A4を「シャーマンⅤ」と呼ぶ。

■シャーマンⅠ

これは、75mm M3 L/40砲を装備したM4戦車である。基本的に米軍の派生型と同じスペックであった。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....戦車連隊

■シャーマンⅠC（（ファイアフライ））

シャーマンⅠと同じだが、Q F 17ポンド(76.2 mm)砲を主砲にしている。これは「ファイアフライ」型として知られている。もう一つ注目に値する差異は、砲手の位置にハッチが追加され17ポンド砲の砲弾をより多く搭載するスペースのために車体機関銃手がなくなったことである。砲塔基部も、米軍の標準シャーマン戦車よりおよそ13mm厚かった。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....戦車連隊

■シャーマンⅡ

シャーマンⅡは米軍M4A1と同じスペックである。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....戦車連隊

■シャーマン Ⅲ

シャーマン Ⅲは米軍M4A2と同じスペックである。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....戦車連隊

■シャーマン Ⅴ

シャーマン Ⅴは米軍M4A4と同じスペックである。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....戦車連隊

■シャーマンⅤＣ（（ファイアフライ））

シャーマンＶＣはシャーマン Ｖと同じスペックであるが、「ファイアフライ」型である。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....戦車連隊

■クロムウェル戦車

クロムウェルは､｢巡航｣戦車に分類され､英連邦軍の装甲偵察連隊で用いられた｡クロムウェルは、両目標砲、高速度と良好な装甲を備えた最初の英軍戦車で素晴らしい運用性と驚く速度が特徴のバランスの良い万能車両である。

英国市民革命の指導者オリバー・クロムウェルから名づけられたクロムウェル戦車は第二次世界大戦中の英国が産み出した最も成功した巡航戦車の一つであった。ナッフィールド社製造の強力で頑丈なロールスロイス・メテオV12ガソリンエンジン（540馬力、毎分2、250回転）は、スピットファイアのような航空機に使われたエンジンである。

本来、クロムウェルは6ンド砲（Ⅰ-Ⅲ）を持っていた｡Ⅳ型以降はOQF 75mm砲か､近接支援型の95mm榴弾砲である。

■クロムウェルⅦ

他にも改良型がある中で、本型式は追加の鋳造前面装甲と幅広キャタピラになっている。

速度は時速51kmである｡主武装はOQF 75mm砲で、600馬力のエンジンを積んでいた。

装甲.....8 - 101 mm

稼動開始.....1944年9月

装備部隊.....戦車連隊

■クロムウェルⅧ

これは、クロムウェルⅦに全面的に改良を行い、95mm榴弾砲を装備している。

装甲.....8 - 101 mm

稼動開始.....1944年9月

装備部隊.....戦車連隊

■チャレンジャー戦車

チャレンジャー巡行戦車(A30)は、クロムウェルに沿って開発した英軍戦車である。チャレンジャーはクロムウェルのシャーシを基にして、17ポンド砲を収めた新型砲塔を搭載している。チャレンジャーはファイアフライの打撃力と、ロールスロイス・メテオV12ガソリンエンジンによるクロムウェルの高速性能が組み合わさっている。17ポンド砲の重さにより、車両機動性能を保つための妥協としてクロムウェルよりも薄い砲塔装甲厚になった。チャレンジャーは、コメット戦車が支持されたために、200両だけ生産されて廃止となった。

装甲.....20 - 102 mm

稼動開始.....1944年8月

装備部隊.....戦車連隊

■スチュアート戦車

M3スチュアートは、公式にはM3軽戦車と知られており、米国南北戦争の南軍将軍J.E.B.スチュアートから名づけられてた。スチュアートは、英軍では、ハニーという非公式名もあった。本車両は、米国参戦に先立っては英軍および英連邦軍部隊にレンドリースで供給され、参戦後は終戦まで米軍や連合軍部隊で使用した。

■スチュアートⅢ

これは M3A1として知られている。この型式は動力旋回砲塔を持ち、砲塔バスケット付だがキューポラはなかった。砲垂直安定化装置が装着されスポンソン機関銃は取り除かれた。快速で信頼性があり、重量は14.5トンと、偵察任務には最適であった。

装甲.....10 - 43 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....戦車連隊、装甲偵察連隊

■スチュアートV

これは M3A3として知られている。この型式は鋳造車体を持ち、ドライバー席は前方の高いところに移った。大型化した砲塔により砲塔により多くの砲弾を搭載でき、車体の空きには燃料容量が追加された。

装甲.....10 - 43 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....戦車連隊、装甲偵察連隊

■自走砲

■オートカー75mm自走砲

英軍の、米国製M3 GMCの名称である。米軍が駆逐戦車部隊にM10 GMCを北アフリカ戦以降に装備し始めるにつれ、M3 GMC 駆逐戦車を英軍部隊に渡し、英軍は近接支援車両として用いた。オートカーは装甲車中隊の重部隊で運用されることが多かった。

装甲.....6 - 12.7 mm

稼動開始.....1944年6月 - 1944年8月

装備部隊.....装甲車中隊

■対空車両

■クルセーダーⅢ対空戦車

クルセーダーが巡行戦車として開発されたが使い物にならなくなってからしばらく、クル

セーダーのシャーシを多用途車両の車体として使い続けた。多くのクルセーダーが戦車連隊に配属される対空車両に改造された。マークⅡ対空車両は二門のオエリコン20mm砲を部分開放砲塔に搭載して武装している。

装甲.....7 - 51 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....戦車連隊、装甲偵察連隊

■ハーフトラック

■M5ハーフトラック

外見ではほとんどM3と同じだが7,400ccエンジンになっている。M5は、M3より重いがそれは、装甲が増した部分のためである。後部車体側面は、ボルトではなく一体型で製造されている。M5は、主にレンドリース用に製造された。

装甲.....8 - 16 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....機械化大隊、偵察連隊、対戦車砲中隊、 装甲車中隊

■M5A1ハーフトラック

本車両は、M49機関銃台座があるM5である。50口径 (12.7 mm)機関銃一丁と.30口径機関銃二丁を装着することができた。インターナショナル・ハーベスト社（IHC）の製造した本型式は、わずかに最高速度が下がり、行動距離も短くなった。

装甲.....8 - 16 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....機械化大隊、偵察連隊、装甲車中隊

■M9A1ハーフトラック

M5と同じだが、積載箇所の配置がM2ハーフトラックのようになっていて、内側と後部扉から無線機を操作でき、機関銃座がある。円形銃座一基と機関銃レール銃架三基もある。

装甲.....8 - 16 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....機械化大隊、偵察連隊

■キャリア

■ユニバーサルキャリア

ユニバーサルキャリアとは、ヴィッカース・アームストロング社が製造した一連の軽装甲のキャタピラ車両の共通名称である。本車両群は、第二次世界大戦中、英連邦諸国で幅広く運用された。通常、兵員、装備、支援火器の輸送や機関銃台座として使用された。本来は二人乗りの設計であるユニバーサルは重量3.7トン、作戦行動距離は241km、最高速度は時速48kmである。

装甲.....7 - 10 mm

■ユニバーサルキャリア MMG

本型式は、後部にヴィッカース中型機関銃を特別に搭載している。

装甲.....7 - 10 mm

備考: ユニバーサルキャリアから降車した中機関銃班にヴィッカース中機関銃を携行させることが可能である。

■ユニバーサルブレンガンキャリア

名前が示すようにブレン軽機関銃を搭載している。ブレンを担当する銃手は操縦手の隣の前席に座っている。ブレンガンキャリアは特に弾薬運搬に用いられたが、歩兵支援火器や対戦車砲牽引も行なった。

装甲.....7 - 10 mm

■ロイドキャリア

ロイドキャリアとは、第二次世界大戦中、英国および英連邦諸国で装備や兵員を戦場に輸送するために使用された一連の軽装甲のキャタピラ車両の一つである。その作りは、フォードソン7Vトラックのエンジン、ギアボックス、ギアボックスに軟鋼車体に装甲板を装備に応じてボルト止めした。ロイドキャリアの上部車体は前面と側面を覆っているが、後方と上面は開放されている。

ロイドキャリアは、6ポンド対戦車砲の一般的な牽引車である。

装甲.....0 - 7 mm

■装甲車

■ハンバーⅣ装甲車

ハンバー装甲車は、第二次世界大戦で最も幅広く導入された英国の装甲車の一つであった。本車両は、1941年末に北アフリカ作戦で投入され戦後も数年間現役ににとどまっていた。本型式は、主砲に37mm砲を装着している。

装甲.....14.5 - 30 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....偵察連隊

■ダイムラーMKⅡ装甲車

ダイムラー装甲車は、バーミンガム小火器社の設計である。マークⅦ軽戦車のものに似た砲塔を搭載したディンゴと同じレイアウトを大型化した設計でより強力なエンジンを持っていた。当時としてはいくぶん先進的な概念が特徴であり、第二次世界大戦で最良の英軍戦闘装甲車両と考えられている。

1941年中期に制定され、ダイムラーにより2000台以上が製造された。

装甲.....7 - 16 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....偵察連隊、装甲車中隊

■ダイムラーMKⅡ装甲車(リトルジョン)

40mm砲の性能向上のため、リトルジョンアダプターを装着したダイムラー装甲車があって、貫徹能力を増大させるために口径漸減している。

装甲.....7 - 16 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....装甲車中隊

■スタッグハウンド MKⅠ

T17E1は、第二次世界大戦で生産された米軍の装甲車であるが米軍では前線での使用が

見られなかった。代わりにM8グレイハウンドに移行したためである。しかし、戦争中は英連邦に供給され、「スタッグハウンド」のニックネームを付けられた。約4000台が製造された。自由ポーランド軍、ニュージーランド軍、のちにカナダ軍が積極的にスタッグハウンドを用いて、多くの装甲車部隊が専用に装備した。

装甲.....9 - 44 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....装甲車中隊

■偵察車両

■ホワイト・スカウトカー（M3）

M3スカウトカーは、ホワイト・スカウトカーとしても知られる。パトロール、偵察、指揮車両、救急車、砲牽引車など、様々な用途で使われた。本車両の製造は1940年に始まって1944年まで続き、2000台以上が生産された。M3は、レンドリースで英国に供給された。

装甲.....6 - 13 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....機械化大隊、偵察連隊、装甲車中隊

■ダイムラー・ディンゴスカウトカー（M3）

ダイムラー・ディンゴは1939年初頭にダイムラーが製造して、かなり成功した偵察車両である。偵察車両として設計されたディンゴは、四輪駆動、前後双方向への五段階トランスミッション、ランフラット・タイヤ、独立コイルサスペンション、それに低い車高を有していた。55馬力エンジンは時速89kmの速度に達し、走行距離は320kmであった。二名の乗員で、前面装甲は30mmと良好に防護されていた。

装甲... 12 - 30 mm

稼動開始... 1944年6月

装備部隊... 機械化大隊、偵察連隊、装甲車中隊、工兵中隊

■非装甲車両

■ウイリスMBジープ

ウイリスMBジープは、1941年から1945年に米国で製造された。連合国軍でも使用され、本ゲームモジュールでも英連邦国軍が使用している。ベースゲームの米軍型と同じ性能である。英軍食うタイ部隊もヴィッカースKやブレンガン機関銃を搭載したジープを用いた。

■ベッドフォード QLD - 万能型

ベッドフォード QLD は、ベドフォード車両が製造したトラックであるQLシリーズの万能型貨物トラック型である。本車は、第二次世界大戦中、英軍および自由ポーランド軍で運用された。

ベドフォード QLは1941年から1945年まで生産された。総計で5万台以上が生産され 、QLD型は最も数が多い型である。

■ベッドフォード QLT - 兵員輸送型

兵員輸送型である。QLDが兵員を輸送できるにも関わらず、本トラックの特化型は車体を延長してかなり座席が大型になり兵員29名に加えて運転席に運転手と兵士一名まで輸送できた。

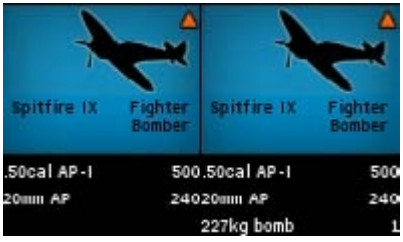
■英連邦航空戦力

■スピットファイアIX型戦闘機

スーパーマリンスピットファイアは第二次世界大戦中に英国空軍やその他の連合軍によって使用される主要な英国の戦闘機だった。迎撃機、写真偵察機、戦闘爆撃機、艦上戦闘機、および訓練機などいくつかの役割で使用された。

武装は、外側に20mmヒスパノMk II機関砲二門(各120発)と内側に50口径ブローニングM2機関銃二門(各250発)である。

兵装.....銃撃、小型爆弾



■タイフーンＩＢ型戦闘爆撃機

ホーカータイフーンは、英国の単座戦闘爆撃機で、ホーカー航空機が製造した。前の型のＩａがブローニング銃を使用したのに対し、Ｉｂは機関砲を装備している。爆弾および対地ロケットを搭載したことで、タイフーンは第二次世界大戦で最も成功した地上攻撃航空機の一つになった。

装備は、20mmヒスパノMkⅡ機関砲四門である。

兵装: .....銃撃、対地ロケット、小型爆弾、大型爆弾

■英連邦砲兵戦力

備考: 2インチ迫撃砲は「重火器」で説明する。

■3インチ迫撃砲 (81 mm)

3インチ迫撃砲は、英国の標準迫撃砲で第二次世界大戦で英陸軍が使用した。砲口から装填し落下発射する従来の煙突型迫撃砲である。

発射速度 毎分8発

■4.2インチ迫撃砲 (107mm)

オーダンスML 4.2インチ迫撃砲は、英軍が使用した重迫撃砲であり、1942年に制定された。

発射速度 .....毎分20発／１分

..... 毎分15発／３分

..... 毎分10発／継続発射

■25 ポンド榴弾砲 (88mm)

25ポンド砲は、第二次世界大戦直前に制定された英軍の主要野戦砲／榴弾砲である。高発射速度、有効な殺傷力のある砲弾、高機動力を持つ、戦時のおそらく最良の野戦砲である。

発射速度 毎分1-5発

■3.7インチ対空砲(94mm)

3.7インチ対空砲は、第二次世界大戦中の英軍の主要な重対空砲である。おおよそドイツ軍の88mm対空砲に匹敵するが、わずかに94mmと口径が大きく、有効性に優れていた。

発射速度 毎分10/20発

■4.5インチ中型砲(114mm)

BL 4.5インチ中型砲は、野戦砲部隊が使用した英軍の砲である。60ポンド砲を更新し、カナダ軍部隊の半数を含む中型砲兵連隊の主要装備として設計された。

発射速度 ..... 強烈 - 毎分2発、通常 - 毎分1発 rpm、持続 - 毎分2/3発

■5.5インチ中型砲(140mm)

BL 5.5インチ中型砲は、第二次世界大戦中期に制定された英軍砲である。カナダ、オーストラリア、南アフリカ、自由ポーランド、インドの連隊に装備され、戦後はニュージーランドでも使用された。第二次世界大戦中、標準編成として連隊あたり16門を2個中隊に編成した。

発射速度 毎分2発

■155mm砲(M1A1 ロングトム)

M1A1 155mm砲は米陸軍によって使用され、レンドリースによって英国に供給された牽引式砲である。本重砲部品の製造は1941年に標準化されている。

発射速度 .....全力射撃：毎分2発

.....継続射撃：毎時30発

■7.2インチ榴弾砲 MKⅠ（183mm)

BL 7.2インチ榴弾砲MKⅠは、第二次世界大戦開始時に英軍が設計した一連の重砲である。

7.2 インチ (183mm) は、新しいデザインではないが代わりに第一次世界大戦の旧式8インチ (203mm) 榴弾砲の再生型である。砲架は8インチ榴弾砲と第一次世界大戦の6インチ砲で使われたものを近代化した型である。

発射速度 毎分1/3発

■英連邦火器

■ウェブリー・リボルバー

ウェブリーは、 70年以上にわたる英連邦軍の標準制式ピストルであった。自動排莢式の中折れリボルバーである。すなわち、折って装填のリボルバーを露出させ、排莢も操作する。これでシリンダーから使用済みのカートリッジを取り除く。

.38/200ウェブリーMk Ⅳ型が、第二次大戦で使用され、多数の国では警官の装備として未だに使われている。

カートリッジ .....380″ リボルバー Mk Ⅱz

有効射程 46m

装弾方式 6発入シリンダー

■ ブローニングハイパワーピストル

本ブローニングは、シングルアクション、9mmセミ・オートマティックで13発入マガジンを持つ。導入年からP-35とも知られる。

ジョン・ブラウニングによる設計に基づいており、ベルギーのFNによって完成された。時を問わず最も広く使用されている軍のピストルの一つであり、数十カ国の軍隊が採用している。

カートリッジ .....9x19mm Parabellum

有効射程 .....50 m (164 ft)

装弾方式 .....13-round magazine

■ リー・エンフィールド No. 4 Mk1

リー・エンフィールドは、ボルトアクション、マガジン装弾式ライフルで英連邦軍が使用した主要火器である。1895年以来、60年以上制式化となっていた。WW1とWW2の両方で英連邦諸国のライフル中隊で標準支給の兵器であった。

No. 4 Mk I は、1941年に正式に採用された。以前のモデルよりも軽く、強力で、製造も容易だったが、第二次大戦中に本型式はさらに製造を容易にするため簡素化された。

主として英国で製造されたが、カナダや英国でも製造された。

カートリッジ 303ブリティッシュ (0.311インチ/ 7.9mm)

有効射程 .....550ヤード (503 m)

装弾方式 5発入クリップ仕様10発入マガジン

■ リー・エンフィールド ライフル スコープ付き

標準No. 4ライフルに望遠眼鏡を装着し、望遠視界を得るように設計したものである 。1944年では、スコープはMk.3系であった。標準No 4 Mk I と同じ性能であるが、有効射程ははるかに長い。

■ステン短機関銃Mk Ⅱ

ステン銃は、第二次世界大戦中に英連邦軍で広くに使

用された一連の英軍9mm短機関銃である。低コストと簡素な設計によりレジスタンスグループが使用するにもたいへん有用であった。ピストル弾をフルオートで発射する典型的な短機関銃である。
MkⅡは、最も一般的な型式で200万丁が製造された。銃床に金属の輪というかなり特徴的な設計である。
カートリッジ .....9x19mm ラベラム弾
有効射程 100m
装弾方式 32発着脱可能クリップ

■ステン短機関銃MkⅤ

本型式は1944年に導入され、MKⅡの改良型である。
変更点は木製ピストルグリップ、木製銃床、銃剣マウント追加。妙な事だが、木製銃床型は一般的に空挺部隊に回された。

■ブレンMKⅡ 軽機関銃

ブレンは、第二次大戦時における英連邦軍の主要歩兵軽機関銃（LMG）である。チェコスロバキアが設計した軽機関銃ZB vz.26の改良・後継型である。ブレンの名称はブルノとエンフィールドの言葉を合わせたものである。ブルノは、設計が行なわれた都市であり、エンフィールドは、英国の小火器工場の場所であった。1930年代に英軍によって制式化され、1991年の湾岸戦争まで20世紀後半を通じて運用された。取り付けられた二脚だけではなく、三脚や車載用にも装着することができる。
カートリッジ 303ブリティッシュ (0.311インチ/ 7.9mm)
有効射程 .....600ヤード (550 m)
装弾方式 30発着脱可能箱型マガジン

■英連邦重火器

■ヴィッカース機関銃

ヴィッカース重機関銃は、メーカーであるヴィッカース社の名を冠する水冷式機関銃である。
第一次世界大戦前から1960年代まで運用された。設計は、19世紀後半の成功したマキシム機関銃に基づいていた。三脚を使用したり、車両に搭載されたりした。ヴィッカースは、非常に堅固で信頼性が高いという評判を得ていた。
カートリッジ 303ブリティッシュ (0.311インチ/ 7.9mm)
有効射程 .....2,187ヤード(2,000 m)
装弾方式 250発キャンバスベルト

■PIAT

PIATとは、"Projector、 Infantry、 Anti Tank（発射装置、歩兵、対戦車）"の略である 。PIATは、第二次世界大戦中に開発された英軍の対戦車兵器である。PIATは、1943年に制式化され、1950年代初頭まで、英連邦軍で使用され続けた。より良い歩兵用対戦車兵器を必要とする英国を満足させるべく1942年に開発された。

PIATは、2.5ポンド（1.1キロ）爆弾を強力なバネと飛翔体尾部にあるカートリッジを使って発射する。

有効射程 .....110 m

■6ポンド対戦車砲MkⅡ

6ポンド対戦車砲は英国の57mm砲である。第二次世界大戦の中期における英国の主要対戦車砲だった。

米陸軍も、57mmM1対戦車砲の設計で6ポンド対戦車砲を主要対戦車砲として採用した。

■6ポンド対戦車砲MkⅣ

MkⅣは、砲身を延長し初速を向上させた。

6ポンド対戦車砲（空挺部隊）

これは本兵器の空挺部隊版である。同じ砲であるがMk3砲架になっており、空挺部隊が使用するために脚部が折りたためてるようになっている。砲盾にも若干の差異がある。

■17ポンド対戦車砲

17ポンド砲は、第二次世界大戦中に英国が開発した76.2 mm砲である。対戦車砲としても使用され、いくつかの英軍戦車にも組み込まれた。シャーマンの砲を強化してファイアフライ型にしたり、M10駆逐戦車をアキリーズ型にした。APDS砲弾で装備したため、ほとんどのドイツ軍装甲車両を撃破することができた。

■M1A1 パック榴弾砲

75mm M1パック榴弾砲は、米軍が困難な地形を移動できる砲の必要から1920年代に開発した。本砲と砲弾はいくつかの部品に分解して動物で運んだり空輸で空中投下して空挺部隊が使用できるように設計された。

パック榴弾砲は空挺部隊が使うのが一般的で、その小ささで空挺降下についていき、軽間接支援射撃を行い、HEAT弾で限定的ながらも対戦車能力があった。

発射速度 6発

■ボフォース40mm対空砲

ボフォース対空砲は、スェーデン製の40mm自動カノン砲で、1930年代初期に設計された。米軍では40mm M1オートマチック砲として知られる。ボフォース対空砲は、毎分120発まで発射でき、初速は881m/秒で、高炸裂弾も徹甲弾も使うことができた。第二次大戦中、ボフォース砲は、ほとんどの連合軍部隊で対空砲として使用された。設計は非常に評判が良く、2013年でも様々な軍隊で現役でありつづけている。備考: CM:BNの対空砲は固定されている。セットアップフェーズ後は移動、車台装着、牽引は一切不可能である。

■2インチ迫撃砲

2インチ迫撃砲は、公式には「オーダンスSBML2インチ迫撃砲」として知られ、英連邦軍によって第二次大戦中と以後に使用された英軍迫撃砲である。

この種の迫撃砲の長所の一つは、その軽量さであり、戦場周辺で携行するのに車両を必要としない。小型ながら、ライフルグレネードより長い射程と強力な火力を有している。備考: フルサイズの2インチ迫撃砲は、オンマップ迫撃砲として使用できるが直発射のみである（火力支援任務で観測員は指示ができない）。空挺用2インチ迫撃砲（空挺ライフルセクションのみにある）は、ライフルグレネードと似て、直接射撃のみに使用できる。しかし、空挺用迫撃砲は煙幕弾しか持たない。

発射速度 毎分8発

■ドイツ陸軍

■戦車

■Ⅲ号戦車G型

Panzerkampfwagen Ⅲは、Ⅲ号戦車として知られており、1935年の15トン中型戦車の配備命令後、1939年に制定された。最初のⅢ号戦車は急激な改良を加えられて、サスペンションは何度も変更された。当初は、KwK L/46.5 37mm砲で武装し、最大30mmの装甲で、Ⅲ号戦車は第二次大戦初期のドイツ軍戦車部隊の主力戦車であった。少数しか使えず、Ⅲ号戦車は優れた戦車であり、ポーランドと大半のフランス戦車を打ち破ることができた。しかし、本戦車は1941年のT-34やKVのような多数のロシア戦車に対してとても敵わず、十分な改良が促進された。37mmカノン砲は、より貫徹能力が優れたKwK L/42 50mmカノン砲がⅢ号戦車G型に搭載された。

主力戦車としての地位が去った後も、Ⅲ号戦車のシャーシは突撃砲や突撃榴弾砲に転換されて生き残った。

装甲.....10 - 37 mm

稼動開始.....1944年9月

装備部隊.....予備戦車小隊 (陸軍のみ)

■Ⅳ号戦車J型 (後期型)

Ⅳ号戦車J型の後期型と初期型の相違点は、近接防御兵器が設置されたことである。

装甲.....10 - 80 mm

稼動開始.....1944年9月

装備部隊.....戦車大隊 (陸軍および武装親衛隊のみ)

■ケーニヒスティーガー（ヘンシェル砲塔）

Panzerkampfwagen Tiger Ausf. Bが、この重戦車のドイツ軍制式名称である。ティーガーⅡやケーニヒスティーガーとも知られるが、通常はキングタイガーと訳される。
ティーガーⅠと同じ設計方針であるが、より大型でより強力になった。パンター戦車で初めて使われた傾斜装甲と同じコンセプトを持つが、ティーガーⅠの装甲厚と組み合わさっている。重量は70トン近くあり前面装甲は100mmから180mmに向上した。主砲は長砲身の8.8cm KwK 43 L/71である。車体はヤークトティーガー駆逐戦車の元にもなった。
最初のティーガーⅡ50両はポルシェ型砲塔で生産された。後にティーガーⅡはヘンシェル型砲塔を搭載した。本砲塔はかなり厚い平面な前面装甲で、丸みのある前面装甲のポルシェ型にあったショットトラップをなくした。
装甲.....100 - 180 mm
稼動開始.....1944年9月
装備部隊.....重戦車大隊 (陸軍および武装親衛隊のみ)

■駆逐戦車

■マーダーⅡ

マーダーⅡは、Ⅱ号戦車の車体で作られた一連の第二次世界大戦のドイツ軍駆逐戦車の名称であった。ドイツ語の「マーダー」は「テン（貂、森林に住むやせた動物）」を意味する。
マーダーⅡには二種類の型式が存在し、Sd.Kfz.132の型はソビエト76.2mm砲をドイツ軍砲弾用に変更したものを砲室に搭載し、Sd.Kfz. 131はPak 40 対戦車砲を搭載した。
Sd.Kfz.131マーダーⅡはFAMO、MAN、ダイムラー・ベンツによって576両が1942年6月から1943年6月の間に製造された。Ⅱ号戦車の車体と上部構造は残して、オープンな戦闘室を車両の上部に取り付けたが、装甲は薄く、乗員は上部と後部から露出していた。マーダーⅡは戦争終了まで全戦線で戦車猟兵派遣部隊で使用された。
マーケットガーデンモジュールにあるマーダーⅡの派生型はSd.Kfz.131で、Pak 40 対戦車砲を搭載している。

装甲.....4 - 35 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....降下猟兵駆逐戦車大隊(空軍のみ)

■ Ⅳ号駆逐戦車/70

Ⅳ号駆逐戦車/70は、より強力なPaK 42 L/70砲を装備したⅣ号駆逐戦車である。

Ⅳ号駆逐戦車は、元々大型砲の設計であったが、不足していたために初期型はPaK 39 L/48が装備された。

装甲.....10 - 80 mm

稼動開始.....1944年9月

装備部隊.....駆逐戦車中隊、戦車旅団大隊(陸軍のみ)

■ 自走砲

■ Ⅲ号突撃榴弾砲42 (後期型)

　Ⅲ号突撃榴弾砲42の後期生産型はⅢ号G型突撃砲（後期型）に相当し、「箱」型防盾に戻り、同軸機関銃とリモートコントロール機関銃が新しく装備された。

装甲.....16 - 80 mm

稼動開始.....1944年9月

装備部隊.....突撃砲旅団および大隊(陸軍および空軍のみ)

■ 装甲車

■ PSW 231

Schwerer Panzerspahwagen（重装甲偵察車両）は、ドイツ軍が第二次世界大戦で用いた六輪ないし八輪の装甲車両である。Sd.Kfz. 231 （特殊用途車両234）は、八輪装甲車で、1936年から始まり1943年までの生産は607両であった。Sd.kfz. 231は、二つの操縦席、後部エンジン、八輪の全輪駆動、20mm KwK38 L/55 機関砲が特徴である。

装甲.....8 - 30 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....装甲偵察大隊 (陸軍および武装親衛隊のみ)

■PSW 233

本車両は、Sd.kfz. 231をベースに75mm StuK L/24を搭載し、偵察部隊が敵戦車および歩兵に

対する場合により強力な火力を提供することを目的とした。本車両は、基本的にSd.kfz. 231から砲塔を取り除き上部構造を75mm砲を搭載できるように変更したものである 。100両以上が生産され、全戦線で1945年まで使用された。

装甲.....8 - 30 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....装甲偵察大隊 (陸軍および武装親衛隊のみ)

■PSW 234/3

PSW 234/3は、Sd.Kfz. 234の火力支援型で、同じ車体を用いてオープントップの上部構造にKwK51 75mm砲を搭載した。PSW 233のように、これらの車両は偵察部隊が歩兵や車両目標に対してより大型の火力を有するためのものである。

装甲.....8 - 30 mm

稼動開始.....1944年7月

装備部隊.....装甲偵察大隊 (陸軍および武装親衛隊のみ)

■ハーフトラック

■SPW 250 "New"

1943年後半になると、新型のSd.Kfz. 250の生産が始まり、簡略化と生産速度向上のため傾斜装甲が単純な平板に変更された。備考: ゲームでは傾斜板付の旧型には名称の後に(Alt)と注記がつく。例: SPW 250/1 = "Neu"、 SPW 250/1 (Alt) = "Alt"

装甲.....5.5 - 14.5 mm

派生型..... SPW 250/1、 250/3、 250/7、 250/9、 250/10

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....装甲偵察大隊

■SPW 251 Ausf. C

1943年がはじまると、SPW 251のD型がC型に替わって製造された。D型は生産速度向上のためC型の傾斜装甲板が簡略化された装甲板に変更された。

装甲.....6 - 14.5 mm

派生型..... SPW 251/1、 251/2、 251/7、 251/9、 251/10

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....各種装甲歩兵および戦車部隊

■対空車両

■SPW 251/17 Ausf. D

Sd.Kfz. 251の対空/火力支援型で、KwK 38 2cm機関砲一門を装甲砲塔に装備していた。

装甲.....6 - 14.5 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....各種装甲歩兵および戦車部隊(陸軍および武装親衛隊のみ)

■SPW 251/21 Ausf. D

Sd.Kfz. 251の別の火力支援型で、MG151 15mm機関砲(通常は航空機のみにみられる火器)一門を装備した。

装甲.....6 - 14.5 mm

稼動開始.....1944年9月

装備部隊.....装甲擲弾兵(装甲旅団)大隊(陸軍のみ)

■Sd.Kfz. 7/1

2cm Flakvierling 38 auf Zugkraftwagen 8tとしても知られるSd.Kfz.7/1は、牽引用ハーフトラックを自走対空砲に改造したものである。運転席より後ろを平坦な対空砲架台に改造して2cm Flakvierling 38砲を装着し、側面を展開して360度回転できるようになっている。備考: CM:BNでは、対空ハーフトラックは運転席越しに車両前面に直接射撃することは不可能である。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....自走対空砲中隊、 戦車大隊

■Sd.Kfz. 7/2

3.7 cm Flak 36 auf Zugkraftwagen 8tとしても知られるSd.Kfz.7/2がSd.Kfz.7/1と異なる点は四連連装機関銃の替わりに3.7cmFlak36砲を装備していることである。備考: CM:BNでは、対空ハーフトラックは運転席越しに車両前面に直接射撃することは不可能である。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....自走対空砲中隊

■Sd.Kfz. 10/5

Sd.Kfz.10ハーフトラックをSd.Kfz.7と同じ方法で対空車両に改造したもので、FlaK 38 2cm砲を回転砲架に一門搭載している。

備考: CM:BNでは、対空ハーフトラックは運転席越しに車両前面に直接射撃することは不可能である。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....自走対空砲中隊

■メーベルワーゲン

四号戦車の車体を基に、メーベルワーゲン(「家具運搬車」) (四号対空戦車とも言われる)は、改良型対空装甲車両で戦闘中の戦車連隊に随伴し近接対空支援を行なうために設計された。オープントップの装甲上部構造を四号戦車の車体に配置し、中央にFlaK43 3.7cm砲を搭載した。上部構造を展開して対空砲が地上目標と交戦することができた。最初に戦闘に投入されたのは1944年の西部戦線で、メーベルワーゲンはかなりの成功が明らかになり、ヴィルベルヴィントやオストヴィントのような将来の装甲対空車両の開発につながった。

装甲.....10 - 80 mm

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....対空小隊(陸軍および武装親衛隊のみ)

■ヴィルベルヴィント

　ヴィルベルヴィント(「つむじ風」)(四号対空戦車とも言われる)はメーベルワーゲンの後継車両である。

先代のように、ヴィルベルヴィントは四号戦車の車体を基にしている。しかし、ヴィルベルヴィントは3.7cm砲一門の替わりに四連装2cm機関砲を装備し、特別に設計されたオープントップ砲塔に搭載している。この配置により地上目標との交戦前に側面を展開する必要がなくなったため、小火器や破片に対して乗員保護がかなり改善された。地上目標にかなり有効であったものの、2cm Flakvierlingは航空機に対して適切な護衛を発揮するには射程に欠けており、1944年のオストヴィントの開発につながる。

装甲.....10 - 80 mm

稼動開始.....1944年8月

装備部隊.....対空小隊(陸軍および武装親衛隊のみ)

■非装甲車両

■Kfz.70 "クルップ・プロッツェ"

　"クルップ・プロッツェ"は、ドイツ軍の進化した設計のトラックである。本トラックは戦争中に様々な用途で使われたが、砲牽引車と自動車化歩兵の輸送が主であった。

7,000台が1933年から1941年にかけて生産された。

■ドイツ軍火器

■FG42

42年式降下猟兵小銃、またはFG42は空軍が産み出した自動小銃である。空挺部隊が使用するために特別に設計されたFG42は、ライフル弾の威力と軽量さ、セミオートとフルオートの射撃モード、ピストルグリップ、二脚の統合など非常に進化した設計であった。結果は、かなり融通が利く画期的な兵器設計で、ライフル、サブマシンガン、軽機関銃の役割をよく満たすことができた。

FG42は戦場では比較的まれな兵器であり、少数が降下猟兵部隊のみに用いられた。初期生産型をＩ型と呼ぶことがあるが、斜めになったピストルグリップがあることで明白である。マーケットガーデンモジュールにある型は後期生産型を表しており、戦場での経験を基に多数の改良が取り入れられて、ピストルグリップをもっと通常の垂直な角度に調整したり二脚アダプターを銃口の方に付け替えて安定性を増したり、銃床を金属から木製に変更したりしている。

カートリッジ .....7.92x57mm マウザー

有効射程 .....500 m

装弾方式 10または20発着脱可能箱型マガジン

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....降下猟兵部隊(空軍のみ)

■ドイツ軍重火器

■leGrW 36 5cm 迫撃砲

1930年代に開発されたドイツ軍の軽迫撃砲であるleGrW 36は、ライフル小隊および中隊に自前の迫撃砲支援を持たせるために設計された。本迫撃砲は、重量14kgで、0.9kgの砲弾を510m先まで打ち上げた。戦争中期までにleGrW 36が軽歩兵部隊や二線級編成に移管されたのは、本迫撃砲がかなり複雑な上、火力に劣るからである。

発射速度 毎分15-25発

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....防空大隊、臨時擲弾兵大隊、飛行場大隊、海軍水兵大隊、海軍狙撃兵大隊

■kzGrW 42 8cm 迫撃砲

クルツ("短い") 8cm Granatwerfer 42は、"シュツメルヴェルファー"とも呼ばれ、標準

的な中迫撃砲である8.1cm GrW 34の改修型である。シュツメルヴェルファーは、軽量の短砲身で、射程は短くなったが重量はかなり減った。シュツメルヴェルファーはドイツ軍降下猟兵に用いられており、失敗した50mm leGrW 36軽迫撃砲に替えての小隊支援火器となった。

発射速度 毎分15-25発

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....降下猟兵部隊(空軍のみ)

■7.5 cm LG 40

7.5cm Leichtgeschutzは、ラインメタル社が開発および製造した無旋条砲である 。LG40は、降下猟兵にパラシュート投下が容易で分解して小型の貨物にできる、より軽量の支援射撃火器を持たせるために開発された。LG40は、重量が145kgで射程は6,800メートルまであった。最初に戦場に投入されたのはクレタの戦いである。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....降下猟兵部隊(空軍のみ)

■3.7 cm PaK 36

PaK 36は、1942年に50 mm PaK 38対戦車砲に更新されるまで、主要なドイツ軍歩兵用対戦車兵器であった。その後、PaK 36はハーフトラック搭載の火力支援としての使用が見られた。降下猟兵は、ある時期、主要対戦車兵器として使用し続けたが、その理由は、その軽量さと、その時期には口径漸減砲用タングステン飛翔体が、多くの同サイズの対戦車兵器が頼っていた多ために極端に貴重になったからである。

1943年に導入された、砲身外に置いて特別な空砲で着火する160mm成型炸薬弾Stielgranate 41により、PaK 36は300メートルの有効射程で最大180mmの装甲を貫通でき、再び近代的な敵戦車を撃破することができるようになった。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....陸軍およびSS擲弾兵臨時大隊、空軍降下猟兵戦車駆逐大隊

■2 cm Flak 38

2cm Flak38は、第二次世界大戦のドイツ軍の主要な軽対空砲である。Flak 38は 、20mm徹甲弾と高炸裂弾を毎分220発、初速秒速900mで発射し、有効射程距離は2 、200mであった。砲架は360度回転式、砲の最大俯角は-12度になるので地上目標と交戦が可能であった。備考: CM:BNの対空砲は固定されている。セットアップフェーズ後は移動、車台装着、牽引は一切不可能である。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....対空中隊

■2 cm 対空四連装 38

Flak38の派生型である、Flakvierlingは、四連20mm砲を特徴としている。各機関砲は20発の弾倉があり、毎分およそ800発の発射速度に制限されている。備考: CM:BNの対空砲は固定されている。セットアップフェーズ後は移動、車台装着、牽引は一切不可能である。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....対空中隊

■3.7 cm Flak 36

3.7cm Flak 36は、ドイツ国防軍が制定した一般的な中型対空砲である。Flak 36は8発入りクリップを使用し、毎分およそ150発、有効射程4、800m(地上目標には6、500m)の射撃ができた。砲架は全周回転式で地上目標と交戦が可能であった。備考: CM:BNの対空砲は固定されている。セットアップフェーズ後は移動、車台装着、牽引は一切不可能である。

稼動開始.....1944年6月

装備部隊.....対空中隊

■地形の特徴

マーケットガーデン モジュールは、バトル・フォー・ノルマンディーに新しい地形や特徴的なオランダ建築を追加します。

備考: 固定溝機能を除いて、これらの地形をマップ上に配置すると、マーケットガーデン部隊や装備と同様に、シナリオをプレイするのにマーケットガーデンモジュールを必要とするようになります。

■固定溝(Ditch Lock)

固定溝は、新しいエディター機能で、固定された二つの標高点間の斜面をデフォルトの斜面よりもかなり急なものとすることができます。固定溝は、溝や土手など狭い地形特徴を作り出すのに使えます。

固定溝を使うには、AdjustかDirect標高ツールに切り替えてから、CTRLキーを押しながらタイル上を左クリックします。そのタイルの標高値が、通常の黒背景の代わりに標高が

急になると示す青背景で表示されるようになります。

■小道(Foot Path)

小道は、コンバットミッションの他の道路機能よりも狭い小さな未舗装の道です。田舎の農場地帯や森の道をシミュレートするのに理想的です。

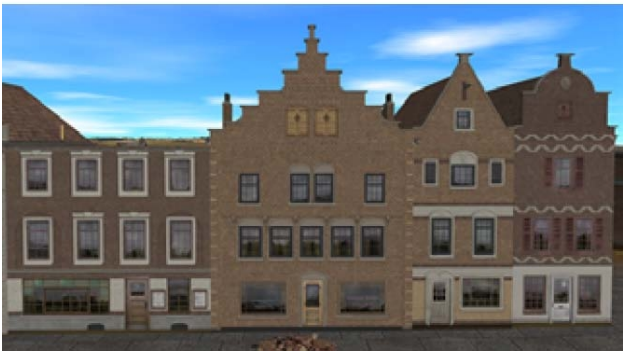
小道は、ほかの道路地形機能の間に見つけることができます。マップへの配置は同じ方法です。

■風車(Windmill)

風車は、新しい四階建ての建築物で、独立建築物の商店カテゴリーにあります。

■街の建築物

アルンヘムおよびナイメーヘン橋周辺の本格的なオランダ建築物を模倣するためのもので、Otherカテゴリーにあります。



■建築物モジュラー屋根

建築物モジュラーには新しい屋根があります。加えて、屋根の方向を回転させることができます。様々な屋根オプションを切り替えるためには、建築物モジュラー屋根上でCTRL+左クリックしてください。

■橋梁(Bridges)

マーケットガーデン モジュールは、コンバットミッションエンジンに巨大な橋梁を導入します。きめ細やく正確に再現したマーケットガーデン作戦で有名な橋梁や、架空シナリオで使う一般的な大型橋梁もあります。新しい橋梁は、マップエディターのBridges#2とBridges #3のセクションにあります。

新しい橋梁の多くが大型サイズで小さなマップに置くのは難しいので、 "切り取り" 版が長めの橋梁には用意されています。切り取り橋は、半分に分割されており、マップには橋の半分の長さの部分だけを出すことができます。この短い橋梁は"-"の印がつきます。

備考: アーネム道路、アーネムおよびナイメーヘン鉄道橋は左右対称ではないため、各橋端の半分が用意されています。

■アーネム橋

大きさ... 長さ600 m、 高さ32 m

備考: 書かれている高さは地表から橋の舗装面までの最大限可能な高さであり、橋梁構造全体の高さではありません。

■アーネム鉄道橋

大きさ... 長さ880 m、 高さ34 m

■アイントホーフェン橋

大きさ... 長さ536 m、 高さ28 m

■ナイメーヘン橋

大きさ... 長さ712 m、 高さ24 m

■ナイメーヘン鉄道橋

大きさ... 長さ936 m、 高さ30 m

■運河橋

大きさ... 長さ40 m、 高さ19 m

■曲弦トラス橋 1

大きさ... 長さ600 m、 高さ32 m

■曲弦トラス橋 2

大きさ... 長さ600 m、 高さ32 m

■アーチ橋

大きさ... 長さ544 m、 高さ28 m

■アーネム橋(-)

大きさ... 長さ272 m、 高さ28 m

■アーネム鉄道橋 (-)

大きさ... 長さ440 m、 高さ34 m

■曲弦トラス橋 1 (-)

大きさ... 長さ300 m、 高さ32 m

■アイントホーフェン橋 (-)

大きさ... 長さ268 m、 高さ28 m

■ナイメーヘン橋 (-)

大きさ... 長さ356 m、 高さ24 m

■エディターでの大型橋梁の配置

巨大な新しい橋梁は、エディターで適切に使用してもその巨大さゆえに、トリッキーなことになることがあります。

適切な配置のためのヒント：

1. マップが橋を置ける十分な広さがあることを確認してください。いやな驚きを避けるために、前もってマップ面積を計画するにあたっては上記の橋面積を参照してください。

2. ハーフサイズの途中までの橋は、橋全体を収容するマップサイズを増やさずに、戦場の周囲に「飾りつけ」として、有名な史実上の橋を描写する場合に便利です。

3. 橋には、その端に「アンカーポイント」が必要です。アンカーポイントは、2x2タイルの固定標高点で、それによって地上から橋がどれほどの高さなのかが決まります。長さが全てある橋は、両端にアンカーポイントが必要です。切り取り橋は、片端だけにアンカーポイントが必要です。ガイドとして下の図を参照してください。

4. 最初にマップ上に橋を配置し、そして橋を動かす必要が無いことを確認してから標高とアンカーポイントを設定します。

5. 最高なものに仕上げるために、アンカーポイントの高さをおそらく数回調節する必要があるでしょう。橋の構造（橋脚以外）が地上に沈み込んでいないことを確認するために、3Dエディターで結果をチェックしてください。沈み込んでいたら、アンカーポイントの標高を高くして橋が地上から浮き上げっているようにしてください。

■アイコン

CM:BN は、様々なアイコンを広範囲に使用しており、プレイヤーが一目でユーザーインターフェースの中の重要な情報を視認できるようになっている。以下のリストはゲーム中で最も重要であり、かつその説明である。

双眼鏡

無線機

爆薬

対戦車擲弾

バズーカ

バズーカ弾

PIAT

PIAT 弾

パンツァーシュレック

パンツァーシュレック弾

パンツァーファウスト 30K

パンツァーファウスト 30

パンツァーファウスト 60

■ドイツ海軍兵科

歩兵

■ドイツ海軍階級章

二等水兵

一等水兵

上等水兵

水兵長

一等水兵長

上級水兵長

二等兵長

一等兵長

上等兵長

二等兵曹

一等兵曹

二等兵曹長

一等兵曹長

上等兵曹長

少尉

大尉

少佐

■エラッタ

(マーケットガーデンモジュールのエラッタは、エンジン ver.2のものであり、すでにエンジン ver.3が出ている現在では意味がないと思われるため、翻訳はいたしません。最新の情報を参照してください。)